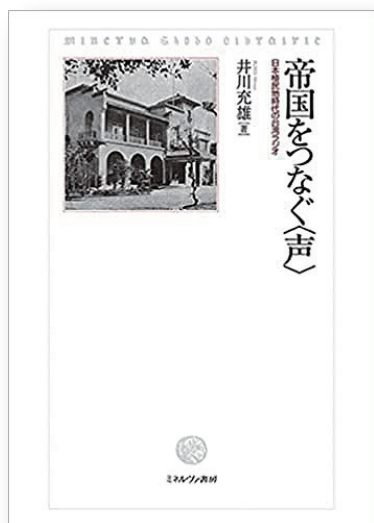


新収蔵資料抄



最寄り図書館に取り寄せ可

帝国をつなぐ〈声〉 日本植民地時代の台湾ラジオ

井川 充雄／著 ミネルヴァ書房 2022.2 本文 247p 22cm

699.222/ ネ 22 2022.4.22 受入 定価 7,000 円＋税

(目次情報は裏面参照)

資料概要

本書は、日本が統治していた台湾のラジオ草創期の事例から、ラジオが同化政策に果たした役割や国民統合のメディアとしての成長を明らかにしようとするものである。

日本では 1925 年にラジオ放送が始まった。ラジオ放送網は、1928 年 11 月に行われることとなった昭和天皇の即位礼を全国中継することを目標に整備が進められた。

当時「外地」と呼ばれた台湾でも、1925 年 6 月に台湾総督府による実験放送があり、1928 年 11 月には試験放送が実施されたが、11 月 10 日の即位礼は中継できなかった。当日は台湾では空電で電波が受信できなかったためである。中継は失敗に終わったが、同年の 12 月には台北放送局が正式に開局する。

開局当初、台湾にいる内地人向けに日本語で行われた台湾でのラジオ放送は、1942 年の 10 月には台湾語を第二放送とする二重放送が始まる。国際情勢が不安定になり戦況への関心が高まることで、ラジオは台湾の人々に浸透していった。本書ではその様子を、様々な史料や統計、二人の台湾人知識人の日記などによって明らかにしている。

ラジオは活字メディアでは為し得なかった離れた場所に存在する人々の時間を共有させることができた。また、一方的にそして即時的に〈声〉を届けることができるメディアだった。ラジオはこの特性によって、帝国主義の列強国において海外植民地と本国を結びつけるための、また国民統合のためのプロパガンダメディアとして使われやすかったと著者は考える。

日本は経済ブロック「大東亜共栄圏」の構築と合わせ、「東亜放送網」というラジオによる情報網を作り上げようとした。1931 年 2 月 1 日に設立された台湾放送協会は南方への宣伝の拠点でもあったのである。

なお、本書の第 6 章には、前橋市の「るなばあく」が登場する。

日本統治時代の台湾におけるラジオの実相を考察する本書とは一見無関係のようだが、るなばあく（前橋市中央児童遊園）には、「もくば館」とともに国登録有形文化財に指定された「旧ラヂオ塔」があるのである。

ラヂオ塔は街頭ラジオとでもいうべきもので、1930 年大阪・天王寺公園に設置されたものが第一号とされる。当初は受信契約者獲得のための広告として機能したが、1940 年代にはリテラシーが要求されない特性を踏まえて即時性を持った上意下達メディアの色彩も帯びた。

花崗岩の基壇の上にモルタル塗洗出し仕上げのコンクリート躯体を載せた常夜灯風の構造物で、高さ 4.9 m。わが国初期のラジオ放送関連施設で、現在も園内放送に使われているという。

著者紹介

井川 充雄（イカワミツオ）

1989 年、一橋大学社会学部卒業。1991 年、同大学大学院社会学研究科修士課程修了。1995 年、同大学大学院社会学研究科博士課程単位修得退学。博士。現在、立教大学社会学部メディア社会学科教授。著書に『近代日本メディア人物誌』（ミネルヴァ書房、編著者、2018）、『戦後新興紙と GHQ—新聞用紙をめぐる攻防』（世界思想社、2008 年）

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料（図書資料・視聴覚資料）から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容は Web にも掲載しています。ご覧の際は右の QR コードをご利用ください。
また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。



目次

序章 「帝国」の時代に、ラジオはいかに響いたか

第Ⅰ部 台湾放送協会の設立と発展

第1章 台湾におけるラジオの登場

- 1 乱れ飛ぶ電波
- 2 天皇の〈声〉への希求 — 御大典と台北放送局の設立
- 3 台湾放送協会の設立
- 4 総督府交通局と台湾放送協会

第2章 台湾ラジオと東亜放送網の拡充

- 1 日台ネットワークの確立
- 2 内地と外地の交換放送
- 3 東亜放送網の形成
- 4 太平洋戦争下の東亜放送

第Ⅱ部 台湾社会とラジオ

第3章 時差撤廃とラジオ—ラジオの作る時間観念

- 1 帝国と標準時
- 2 時差撤廃をめぐる論争
- 3 時差撤廃の前後
- 4 ラジオの作る時間

第4章 日本統治時代の台湾におけるラジオ体操 — 動員される身体

- 1 ラジオ体操と身体
- 2 台湾におけるラジオ体操の開始
- 3 ラジオ体操の集団化

第5章 日本統治時代の台湾におけるラジオリスナー — 日記から読み解く台湾人にとってのラジオ

- 1 統計調査から見るラジオ聴取者
- 2 台湾人の日記に見るラジオ

第6章 台湾におけるラジオ塔 — 日本統治下の台湾におけるラジオの共同聴取

- 1 遺構としてのラヂオ塔
- 2 ラヂオ塔の設置
- 3 台湾におけるラヂオ塔の設置
- 4 事変後のラジオと聴取者

第Ⅲ部 戦時下の台湾放送協会

第7章 アジア・南方への拠点としての台湾放送協会

- 1 台湾放送協会に対するアジア・南方への拠点としての期待
- 2 台湾のラジオ放送聴取調査
- 3 台湾放送協会による海外放送の開始
- 4 民雄放送所の設置と太平洋戦争

第8章 太平洋戦争下の台湾放送協会

- 1 副見喬雄と台湾総督府交通局
- 2 太平洋戦争の開戦当日
- 3 二重放送の開始
- 4 その他のインフラ整備

第9章 台湾における玉音放送 — 台湾統治の終わりの始まり

- 1 外地における玉音放送
- 2 台湾における玉音放送
- 3 接收までの経緯
- 4 接收後の台湾のラジオ放送

終章 解体される「帝国」とラジオ

主要参考文献

あとがき

人名・事項索引